

木喰明満上人

木喰明満上人は江戸時代後期の遊行僧です。甲斐国(山梨県)で生まれ、22歳の時に出家し木食戒(五穀や肉を断ち、火食せず木の实や山菜、そば粉などを常食とする修行のこと)を受けた後、諸国を行脚しながら仏像を彫り続け、各地に千軀以上の像を遺しました。猪名川町を訪れたのは文化4年(1807)90歳の時で、約3ヶ月間の滞在中に33軀の彫像をしたと伝えられています。加勢大工の與清を伴っていたとはいえ、その彫像の速さには驚くべきものがあります。木喰明満上人(行年93歳)最晩年の円熟した作品群であり、その内の26軀は町内に現存し、平成11年(1999)に兵庫県指定重要有形文化財に指定されました。

木喰仏の秘密

木喰仏の背面には木喰明満上人が墨書した銘文があります。右図は毘沙門堂の自刻像の背銘ですが、

- ①願 意 [天変地異のない天下泰平の世]
- ②自分の名前 [神通光明] (明満仙人)
- ③像 の 名 前 [明満仙人自刻蔵] (ママ)
- ④年 齢 [90歳] (花押)
- ⑤加勢大工名 [與清] (新潟県出身 60歳)
- ⑥造像年月日 [文化4年(1807)4月9日]

などが書かれています。

これにより、木喰仏の概要を知ることができます。「日本千タイノ内」とは木喰明満上人が廻国にあたり千体彫仏を発願し、その内の1軀であることを示しています。

- 日本千タイノ内作
梵字(ナ) ①天下和順 ②神通光明
③明満仙人自刻蔵 ④九十才(花押)
①日月清明 カセイ大工 ⑤與清
⑥文化四卯歳四月九日



木喰仏を訪ねる

※見学については下記へお問い合わせください。

- 天 乳 寺** 猪名川町万善寺ノ下通 29 TEL 072-768-0434
- 東 光 寺** 猪名川町北田原寺ノ前 452 TEL 072-766-0831
- 毘 沙 門 堂** 猪名川町上阿古谷字毘沙門
(教育委員会: TEL 072-767-2600)
- ふるさと館** 猪名川町木津字八十九番地の2
TEL 072-768-0389



猪名川の木喰仏

兵庫県指定重要有形文化財

【旧川辺郡中谷村・六瀬村所在木喰明満作木彫群26軀】



毘沙門堂の自刻像



東光寺の自刻像



天乳寺の自刻像

猪名川町教育委員会
〒666-0292 兵庫県川辺郡猪名川町上野字北畑 11 番地の 1
TEL 072-767-2600

猪名川町教育委員会

猪名川での木喰明満上人の足跡を木喰仏の造像順にたどってみましょう。

※木喰仏の名称と造像年月日(背銘より)
※内容は猪名川町文化財調査報告1に基づく
※背景色は所在を示す

- 毘沙門堂
- 天乳寺
- 東光寺
- 町・個人



1 善名称吉祥王如来坐像
文化4年3月26日



2 金色宝光妙行成就如来坐像
文化4年3月26日



3 無憂最勝吉祥如来坐像
文化4年3月27日



4 葉師瑠璃光如来坐像
文化4年4月2日



5 法海雷音如来坐像
文化4年4月3日



6 法海勝慧遊戯神通如来坐像
文化4年4月4日



7 明満仙人倚像
文化4年4月9日



8 得大勢至大菩薩立像
文化4年4月20日



9 聖観世音大菩薩立像
文化4年4月21日

毘沙門堂 (7軀)

毘沙門堂の自刻像(写真7)は檜の木で造られ、微笑仏と呼ばれる理由がよくわかる
柔和な顔をされています。

七仏薬師坐像(写真1~6)は全国的にも珍しいものであり、像の容姿が蔭涼寺(京都府南丹市)にあり当時の庵主は尼僧に遺された薬師三尊像(文化4年2月造像)によく似ています〔※盗難に遭い現存は6軀〕。背面の上部には仏像の配置を指示する文字や符号が書かれており、病気や災いから救ってくださる七仏薬師に対する木喰明満上人の強い思いが感じとれます。毘沙門堂は猪名川町域に入った木喰明満上人が最初に訪れた場所でもあります。

東光寺 (14軀)

東光寺の自刻像(写真10)は杉の木で造られています。
十王坐像群(写真13・14・16・18~24)は亡者の生前の罪を裁く冥界の10人の王を彫ったものです。中でも琰(閻)魔大王(写真13)などはよく知られていますが、地獄の恐ろしい王たちも木喰明満上人の手にかかると愛嬌のある顔に彫られています。三途の川のほとりで亡者の服をはぎ取る葬頭河婆(写真15)や白鬼(写真17)も味わいのある表情になっており、木喰明満上人晩年の群像の中でも最高傑作と評されています。また、境内の観音堂には檜の木に直接彫られた立木子安観音立像(写真26)が安置されています。歴史学者、栗野頼之祐氏により昭和26年(1951)に町内で初めて木喰仏が発見されたのも東光寺でした。

真筆 (5幅)

木喰明満上人の真筆(上人90歳の時の直筆)が町内の旧家に遺されていました。「寿」「年徳」「大慈大悲」「九字呪文」「諸神尊名と自戒句書跡」の5点で、木喰仏だけではなく和歌や俳句、書などからも素朴な微笑を感じることができます。

天乳寺 (3軀)

天乳寺の自刻像(写真11)は松の木で造られ、顔や足などに墨が塗られています。
寺子屋の子どもたちのいたずらだと思いますが、人々の身近な存在として親しまれていたことがわかります。また背銘も明確に読み取ることができ、木喰仏を解明する重要な手がかりとなりました。頭光を付け、数珠を持って、椅子に座られ(倚像)、斜文の台座の上で微笑みをうかべている姿は他所の自刻像2軀にも共通する特徴です。中でも天乳寺の自刻像は木喰明満上人生涯最後の自刻像作品といわれています。阿弥陀如来の脇侍とされる菩薩像2軀(写真8・9)は1本の松の木を縦に半分に割って彫られたものです。また正面のほとんどは墨で黒く塗られています。

町所蔵[ふるさと館展示] (1軀) ・ 個人所蔵 (1軀)

一戒大黒天立像(写真12)は材木を提供されたお礼に遺されたものと伝えられています。1軀に戎さんと大黒さんが仲良く彫られているのは興味深いです。背面には「大こく」と「えびす」を詠み込んだ俳句が2句書かれています。
松尾大権現倚像(写真25)は造り酒屋をしていた家に遺されたもので、京都の松尾大社(酒の神様)に因んでいると考えられます。背銘に「日本二千タイノ内」とあることから、木喰明満上人が千体彫仏の本願を猪名川町で成し遂げ、さらなる目標に向かおうとしている意気込みが感じられます。

※軀とは仏像を数える場合に用い「体」と同じ意味です。



10 明満仙人倚像
文化4年5月14日



11 明満仙人倚像
文化4年5月18日



12 一戒大黒天立像
文化4年5月20日



13 琰魔大王坐像
文化4年6月2日



14 十王坐像の一(秦広王)
文化4年6月3日



22 十王坐像の七(平等王)
文化4年6月19日



21 十王坐像の六(太山王)
文化4年6月18日



20 十王坐像の五(变成王)
文化4年6月18日



19 十王坐像の四(五官王)
文化4年6月17日



18 十王坐像の三(宋帝王)
文化4年6月14日



17 白鬼立像
文化4年6月12日



16 十王坐像の二(初江王)
文化4年6月8日



15 葬頭河婆坐像
文化4年6月6日